

## 平成20年度南丹市一般会計・特別会計決算の概要

### 平成20年度決算 一般会計の概要

**歳入 221億6,283万1,921円**

**歳出 216億4,810万2,951円**

平成21年12月市議会定例会で認定された『平成20年度南丹市一般会計・特別会計決算』の概要についてお知らせします。

平成20年度の一般会計決算額は、市に入ったお金(歳入)が221億6,283万1,921円、使ったお金(歳出)が216億4,810万2,951円で、差し引きすると5億1,472万8,970円となり、この内から翌年度への繰越財源1億3,594万円を除いた3億787万8,970円の黒字となりました。

ただし、その歳入には、市の貯金といえる基金を取り崩した7億4,529万9,820円や、前年度からの繰越金5億9,316万8,652円が含まれています。

歳入で一番多いのは、標準的な行政サービスを行うために交付される「地方交付税」が96億2,042万6,000円、歳入全体の43.4%を占めています。続いて、市民税や固定資産税などの「市税」で47億3,795万3,790円(21.4%)の順となっています。

歳出は社会生活に必要な福祉施策経費の「民生費」が43億4,943万7,871円と最も多く、歳出全体の20.1%を占めています。続いて公共施設の建設事業費などの財源として借り入れた市債を返済する経費の「公債費」が41億8,377万8,191円(19.3%)となっています。

そのほか、9特別会計(企業会計は除く)のうち老人保健事業特別会計は歳入不足額が発生したため翌年度歳入繰上充用金により処理し、他の特別会計については、すべて黒字で今年も維持しております。

本市は、学校施設建設や道路・公園整備など、多様な市民要望に応え、社会資本の整備を積極的に進めてきました。一方で、これら施設整備などに伴い多額の市債を発行してきた結果、その償還のための公債費や景気の低迷、少子・高齢化社会などに対応した福祉施策拡充のための扶助費などの義務的経費が増加し、財政構造の硬直化が進み厳しい財政状況となっています。

このような状況の中、安定した財政基盤を確立し、将来に希望の持てる南丹市を実現するため「南丹市総合振興計画」、「南丹市行政改革大綱・南丹市行政改革推進計画」や「南丹市経営改革プラン」に基づき一層の改革を進め実施事業計画を公表し事業の重点化を図るなかで、森・里・街がきらめき、次代を切り拓くまちづくりを推進していきます。